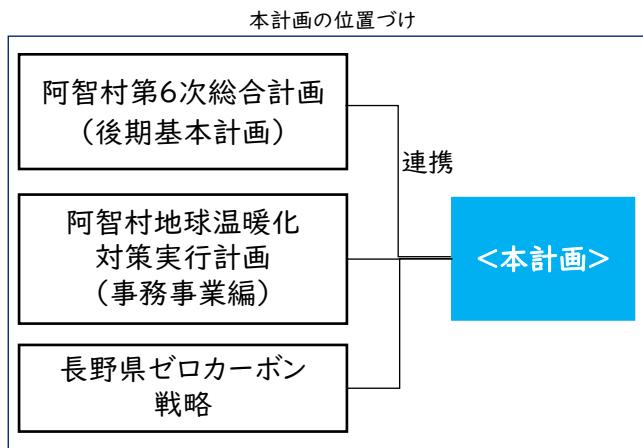


阿智村地球温暖化対策実行計画(区域施策編) ~概要版(1/2)~

1.本計画の位置づけ

阿智村では、2022年度に「第6次総合計画(後期基本計画)」を策定しています。「安心安全に暮らせる環境づくりと、人と自然を大切にしたい絶景の村をめざす」を基本目標に、再生可能エネルギーの導入等を進めていますが、これまで以上に具体的な地球温暖化対策に取り組むことが必要です。本計画は、村民、事業者及び行政が連携・協力して地球温暖化対策を進めるため、目標を定め、具体的な推進・実施内容についてまとめています。



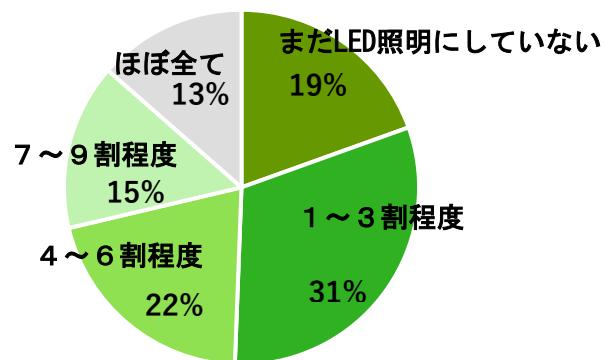
2.住民アンケート結果(抜粋)

村民のエネルギー消費に関わる生活実態の把握や、カーボンニュートラルに関する意識調査のため、住民アンケートを実施しました。

調査対象	村内500人
調査期間	2025年9月29日～10月20日
回収率	55.2%(276人)

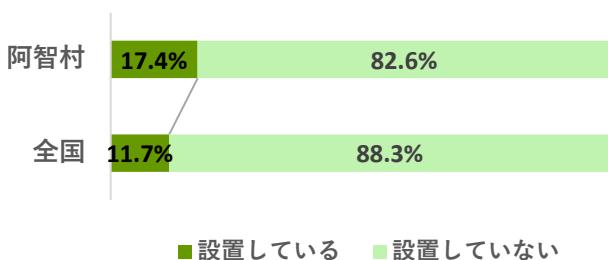
(1)LED照明について

村内の各家庭で主に使われている照明器具について、LED照明への置換えが「ほぼ全ての置換えをしている」が13%となっており、LED照明を設置している家庭は約80%となっています。



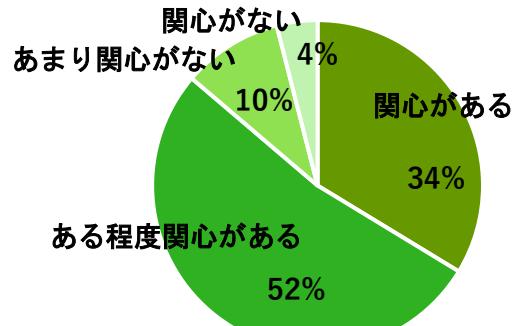
(2)太陽光発電設備について

各家庭における太陽光発電設備の導入率は、阿智村は17.4%となっており、全国(11.7%)より、高くなっています。



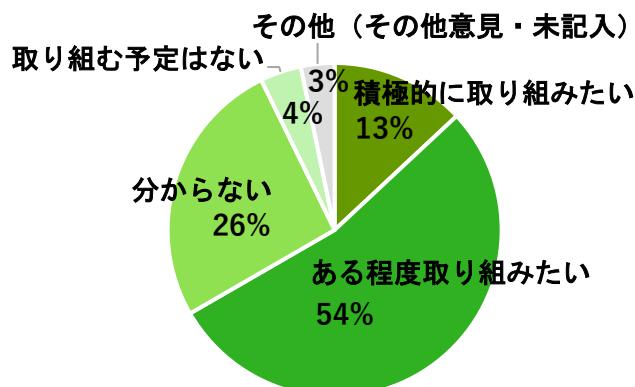
(3)地球温暖化に関する関心

「地球温暖化、オゾン層の破壊、森林の減少等の地球環境問題」について、「関心がある」、「ある程度関心がある」との回答が86%となっており、住民の地球環境問題に関する意識の高さが確認できます。



(4)カーボンニュートラルへの取組

「カーボンニュートラルへの取組について」に関しては「積極的に取り組みたい」、「ある程度取り組みたい」との回答が67%で、排出削減に向けた取組に関心を持つ比率が高くなっています。



(5)意見(抜粋)

- ・それぞれ出来ることに取り組み、地域の取組に進んで参加する。
- ・我々にできることは、「節約」、「もったいない精神」で生活すると同時に、世界中に広めていくべきである。
- ・環境に優しいエネルギー開発にもっと力をいれてほしい。
- ・温暖化が進み農業も大変である。
- ・カーボンニュートラルに関しては、村からの補助金等がないと厳しいと思う。

3.事業所アンケート結果(抜粋)

調査対象	村内21事業所
調査期間	2025年9月29日～10月20日
回収率	61.9%(13事業所)

(1)LED照明について

12事業所がLED型の照明器具を使用し、うち5事業所がLED型のみ照明設備となっています。

(2)再生可能エネルギーの導入について

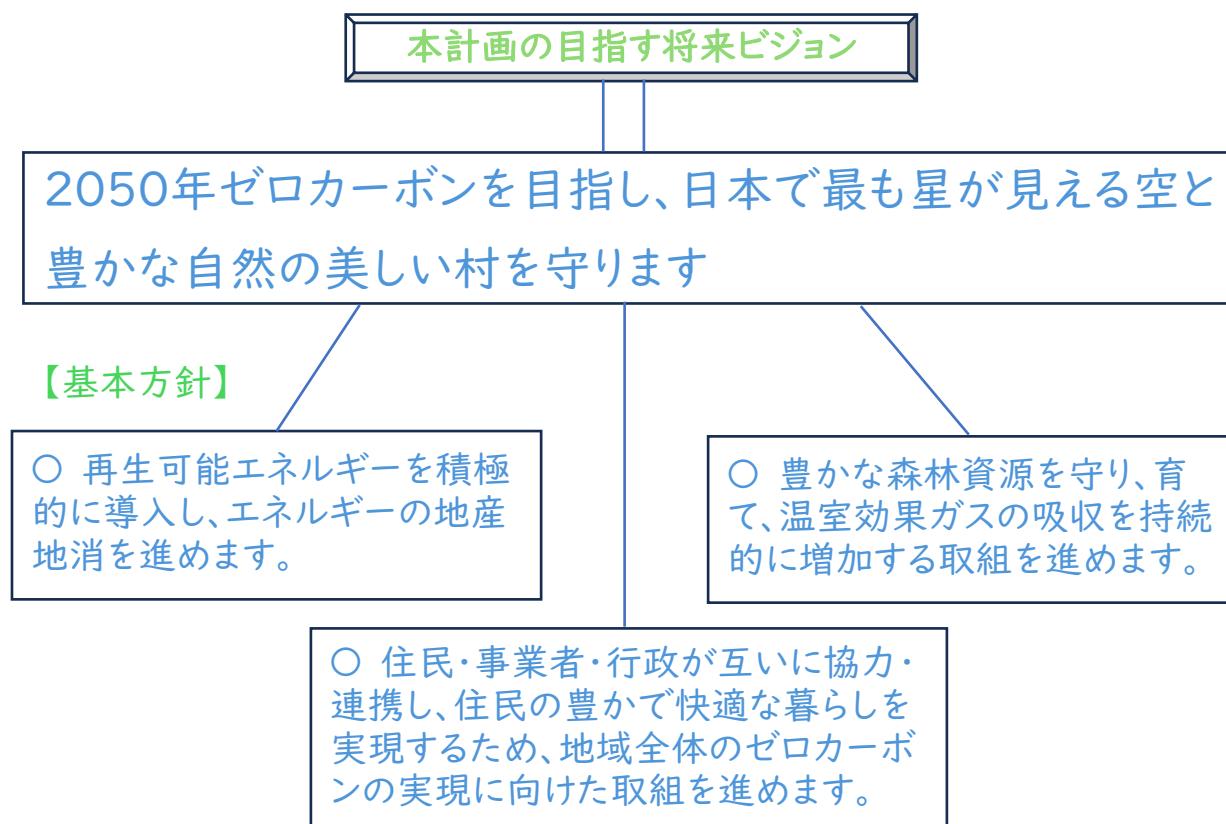
太陽光発電設備は、4事業所が導入しています。この他の再生可能エネルギーの導入はありません。

(3)温暖化対策として取り組むべきと考える項目

選択肢	構成比
再生可能エネルギーの導入	38.5%
熱利用の効率化	7.7%
CO ₂ の排出がない電気の調達	46.2%
エネルギーマネジメントシステムの導入・活用	30.8%
脱炭素型ビジネスの実践	23.1%
環境マネジメントシステムの導入・更新	7.7%
従業員に対する環境教育の実施・継続	61.5%

4.計画の将来ビジョン及び基本方針

本村の豊かな自然を守り、ゼロカーボンを達成し、持続可能な村づくりを進めます。



地域の豊かな資源を最大限に活用し、持続可能な村づくりを進め、本計画の将来ビジョンを実現するため、上記の基本方針により総合的に取組を進めます。

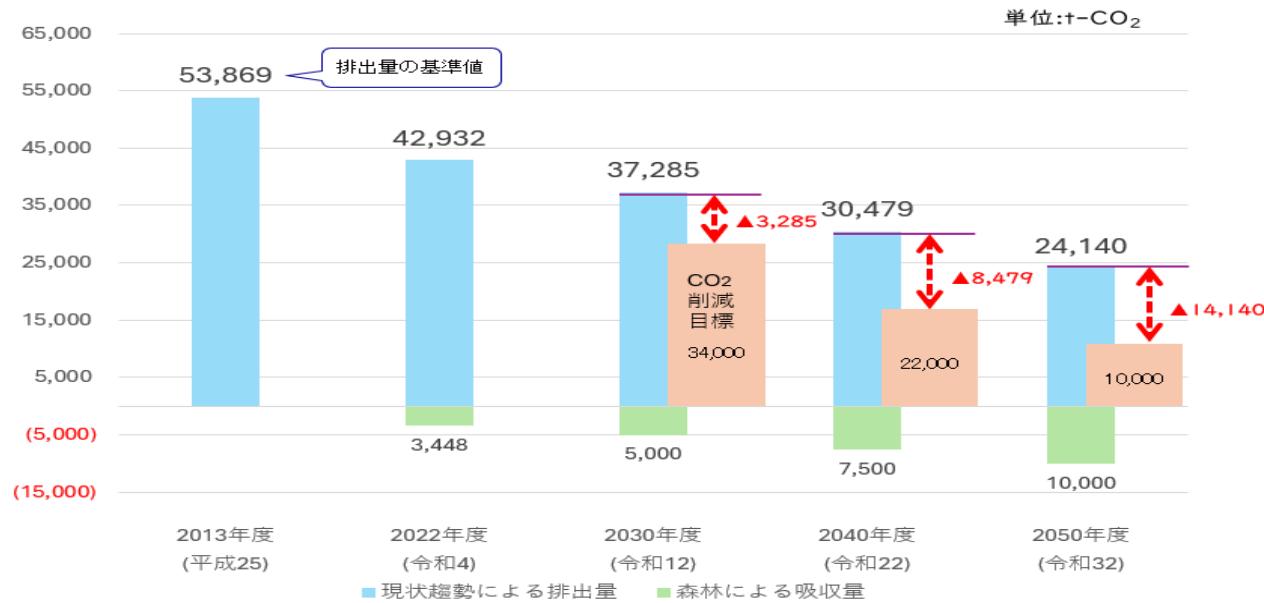
5.温室効果ガス排出量の削減目標

阿智村の温室効果ガス排出量の削減目標

- 2050年までにカーボンニュートラル(温室効果ガス排出量の実質ゼロ)を目指します。
- 2030年度及び2040年度の温室効果ガス排出量を2013年度比、それぞれ46%、73%の削減を目指します。

森林による温室効果ガス吸収量の目標を2030年度 5,000t-CO₂、2040年度 7,500t-CO₂、2050年度 10,000t-CO₂とします。

これにより、温室効果ガス排出量の削減目標達成のためには、現状の傾向が続くとして推計した削減量より、2030年度までに約3,300t-CO₂、2040年度までに約8,500t-CO₂、2050年度までに約14,000t-CO₂の新たな温室効果ガスの削減に取り組む必要があります。



6.目標達成に向けた各部門の取組②

省エネルギーの推進

できることから始めよう

- ・国では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、新しい国民運動「デコ活」を展開しています。具体的な対策や取組を積極的に周知・啓発を行い、村民の省エネルギー等に対する意識を高めます。

※「デコ活」は、CO₂を減らす、(DE)脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)を含む「デコ」と活動・生活を合わせた言葉

○「デコ活」の具体的対策による温室効果ガスの削減効果等の試算

対策	内容	CO ₂ 削減効果	節約額
太陽光発電設備の導入	太陽光発電設備の導入	919.8 kg-CO ₂ /世帯	53,179 円/年
家庭エコ診断の実施	地球温暖化や省エネ家電等の知識を持った診断士が、省CO ₂ ・省エネ提案・アドバイスを行う家庭エコ診断を受診し、各家庭の実情に合わせた対策の実施	31.5 kg-CO ₂ /世帯	4,185 円/年
ヒートポンプ式給湯器の購入	従来型の給湯器から高効率給湯器(ヒートポンプ式)へ更新	525.6 kg-CO ₂ /台	35,394 円/年
家庭用燃料電池の購入	従来型の給湯器から高効率給湯器(家庭用燃料電池)へ更新	163.8 kg-CO ₂ /台	13,977 円/年
LED等高効率照明の導入	LED等高効率な照明を導入	27.2 kg-CO ₂ /世帯	2,876 円/年
冷蔵庫の買換え	統一省エネルギーラベルなどを参考に、省エネ性能の高い冷蔵庫に買替え	107.8 kg-CO ₂ /台	11,413 円/年
エアコンの買換え	統一省エネルギーラベルなどを参考に、省エネ性能の高いエアコンに買替え	69.8 kg-CO ₂ /台	7,388 円/年
スマート節電(HEMSの導入)	エネルギー使用量の表示・管理システム(HEMS)やIoT家電の活用により、節電を実施	87.5 kg-CO ₂ /世帯	9,268 円/年

温室効果ガス排出量の少ない車種への転換

車両	燃費・電費	排出係数	CO ₂ 排出量(t-CO ₂ /年)
ガソリン車	15km/L	2.32(kg-CO ₂ /L)	1.55
ハイブリッド車	25km/L	2.32(kg-CO ₂ /L)	0.93
電気自動車	16.7kWh/100km	0.438(kg-CO ₂ /kWh)	0.73

- ・ガソリン車はハイブリッド車や電気自動車と比較し、温室効果ガスを多く排出すると試算されるため、ハイブリッド車や電気自動車への転換を進めていきます。

6.目標達成に向けた各部門の取組①

再生可能エネルギーの導入

- ・村の補助制度の周知を徹底し、村民等の制度活用による導入を一層推進します。

- ・本村の豊富な森林資源を活用した木質バイオマスによる温室効果ガス排出削減への取組を推進します。

【再生可能エネルギーに係る村の補助制度】

太陽光発電設備



1kWあたり5万円(上限20万円)

ペレット・薪ストーブ・ボイラー



直接的経費の3分の1以内(上限10万円)
※ボイラーの上限は20万円

※このほか、太陽熱温水器の補助(上限10万円)

7.計画の推進体制及び進捗管理

本計画は、村民・事業者・村(行政)が連携して推進していきます。村役場内では、村長をトップとし、横断的な庁内体制を構築・運営します。

